



戦略企画会議から

Progress Report from the Strategic Planning Committee

戦略
企画
会議

日本眼科学会学術奨励賞について

日本眼科学会学術奨励賞について

日本眼科学会では、日本の眼科学教育・研究を多方面から援助し、国際的なレベルで眼科学研究を進展させ、発信できるように、戦略企画会議に第二委員会「国際化・研究」を設置し、人材開発および交流の国際化と研究活動の推進に取り組んでおります。学術の振興と奨励等を目的としたかねてからの事業としては、日本眼科学会学術奨励賞が設けられており、優秀な研究業績を発表した若年会員(40歳未満)を毎年、顕彰しています。

本稿では、1989年(平成元年)の賞創設から2013年(平成25年)までの25年間の学術奨励賞受賞者のプロフィールについてご紹介いたします。

1) 受賞者数と男女比

25年間でのべ82名の方が受賞されており、男女比は73:9と男性が約9割を占めていました。

2) 受賞時の所属

国公立大学58名、私立大学16名、市中病院5名、公的研究所2名、海外1名でした。

3) 申請論文の研究領域(図)

網膜硝子体が34篇と最も多く、次いで角膜が18篇であり、この2領域で約6割を占めました。ぶ

どう膜・眼炎症9篇、眼循環5篇、神経眼科5篇、緑内障4篇、小児・発生・全身病3篇と続き、その他は4篇でした。

4) 受賞者の現在

受賞者の現在の職位を調査しました。今回の統計では申請論文の発表から現在まで10年以上経過している2013年度の受賞者までを対象としました。

教授(名誉教授も含む)・公的研究所のプロジェクトリーダー32名、准教授・講師17名、開業医15名、市中病院眼科部長(医長)7名、その他11名でした。6割以上の方が大学等で研究活動を継続されていると考えられます。

学術奨励賞は毎年1月10日に募集を開始し、3月末日で締め切られます。応募には評議員の推薦が必要となります。各年度5名以内に授与され、副賞として30万円と次年度の日本眼科学会総会において記念講演の機会が与えられます。ただし、近年は英語でご講演いただくことが条件となっております。たくさんのご応募をお待ちしております。

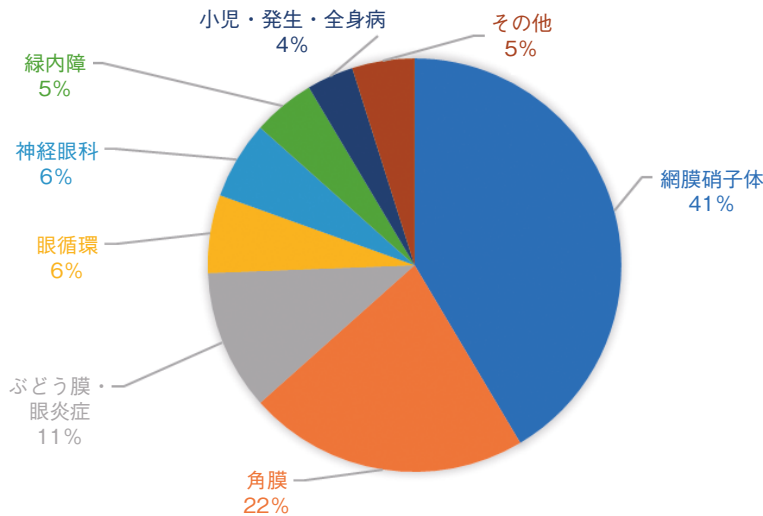


図 申請論文の研究領域.